

今日のみことば

□ 2月4日(日) ヨシュア記 20章

古代イスラエル法は誤って他人を殺害した者のために、報復者の手から逃れる特別の場所を設けた。その重要性を物語っている。聖書は人命を軽々しく扱ってはいない。

□ 2月5日(月) ヨシュア記 21章

レビ族は祭司の部族。土地は与えられなかった。信仰の代表者、礼拝を司る者として全部族から48の町、放牧地が与えられ、イスラエルの精神生活を保護する者としての役目を担った

□ 2月6日(火) ヨシュア記 22章

移住に伴う出来事最後のものは、任務を終えた東の部族ルベン族、ガド族、マナセの半部族がヨルダンの向こう側の自分の領地に帰る許可でした。

□ 2月7日(水) ヨシュア記 23章

ヨシュアはイスラエルの歴史を回顧し、その経験から民が将来どう生きるべきかを教えました。神に対する忠誠と、律法遵守の精神です。

□ 2月8日(木) ヨシュア記 24章

イスラエルの500年の歴史を回顧して、真の神、主こそ仕えるべき神だといいます。選択は民の前に置かれた。そしてそれは、真の神に従うか、捨てるかであった。

□ 2月9日(金) 士師記 1章

イスラエルのカナン征服は完全ではなかった。それを完成するために彼らは正しい仕方です。それを始めた。「主に問う」たのでした。そして主の導きにしがたって、大勝利を得ました。

□ 2月10日(土) 士師記 2章

イスラエル人が完全にカナンを征服することが出来なかった理由は、ヨシュアの死後、民は異教にはしり、その神の律法・命令に不従順であったためでした。

ろ ぼ No. 1853
2018年 2月 8日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 4:10

すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」

「退け、サタン」とのことばは世界広しといえども、イエスにおいて他に口に発することが出来る人はおりません。イエスが発せられた最初のことばは、イエスが誰であるかを語られることばであると共に、私たちがいかに主に倣って生きるかとの大事さを、私たちはそこに聞くのです。

ヨハネからバプテスマを受けられたイエスは、聖霊に導かれて荒野に行かれました。そこにはこの出来事が神からのものであるとの明確のメッセージを私たちは聞かせていただくのです。そして私たちはさらに、イスラエルの民を導いてお出でになった神の御心を聞かせていただくと共に、今日の私たちが歩む道をも示されるのでした。

40年の荒野でのイスラエルの民の生活は、そのあらゆる面において、イエスの試練の40日間に示されたことでもありました。イスラエルの民の荒野での試練の失敗の再現でもあったと言われます。

その試みは、私たちの生活問題、宗教問題、社会問題にわたったものでした。問いかけられたひとつ一つは、私たちが真剣に悩まさせられている出来事です。イエスがどのようにこれらの試練と向きあわれたか。私たちは心を込めて聞かせていただくのです。それは私たちが、試練と向きあうときの大切な指針と言えるべきものです。そこには神の子イエスの毅然とした姿勢

を見させていただくと共に、御子にあって救われた私たちが歩むべき道でもあることを教えていただくのでした。イエスだからというわけではありません。これは普遍的なクリスチャンの生き方なのです。特に試みに会うとき、私たちはしっかりみ言葉に聞く姿勢を忘れてはならないのです。イエスは向きあわれたどの試練とも、しっかりと向きあわれ、み言葉をもって勝利を収められました。これこそが私たちが試練と向きあう時の姿勢であり、私たちは、試みに勝たれた救い主によって勝つことが出来るのです。

そこには弱さにあえぐ私たちが、そこから抜け出す道を見させていただくことです。「ご自身、試練を受け苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです」(ヘブル2:18)と言われます。イエスがどのようにして見事にこの苦境を乗り越えられたのか。その一つは、イエスが「御霊に導かれて荒野に行かれた」ということであり、さらにイエスは三度が三度とも、聖書のみ言葉をもってサタンと対されたということです。パウロは「御霊の剣、すなわち神の言葉をときなさい」(エペソ6:17)と言いました。聖書は私たちクリスチャンがサタンと戦うために用いるべき剣なのです。昔の侍の言葉に「腰の朱鞘は伊達にはささぬ」という言葉があるそうですが、私たちがまた、聖書を伊達に持つのではなく、十分に中身を吟味して、まさかの時にその切れ味を試さなければなりません。イエスは「サタンよ、退け」と言って、断固とした態度を持ってサタンと向きあわれました。私たちがまた、この毅然とした態度で、私たちが試みるすべてのものと向きあうのです。その力を、十字架のイエスは私たちに下さいます。

次週の聖書・説教	ヨハネ1:35-39	何か用か。
----------	------------	-------

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マルコ 7:31-37 指を両耳に差し入れて

イエスが「エファタ」と言われた言葉で、そこに何が起こったか。耳が聞こえず舌の回らない人がいやされました。イエスにこの男に手を置いて祈ってほしい、と連れてきた人はお願いをしました。ところがイエスは、その男の患部に直接手を触れて言われたのです「エファタ」と。その男はいやされ、耳が聞こえるようになり、舌もろれつが回るようになって話を始めました。

この出来事は人々に、イエスが誰であるかを思わせました。イエスが「だれにもこのことを話してはいけない」と口止めをされましたが、口止めされればされるほど、人々はかえってますます言い広めたのでした。それが道理であって、私は私たちの信仰のあり方を問われる出来事だと思わせていただいているのです。口止めされてははいないの、喜びを語ることも少なくありませんか。考えてみたいです。



Read God's Word.